

登録団体募集 金沢ラウンジでは登録団体を募集しています

金沢区内で外国人支援・国際交流・国際協力をしている団体で、営利、宗教又は政治的な活動をしていないことが登録の条件です。登録団体になると、交流室1・2が無料で利用できます。団体の会合や研修、語学教室等にご利用ください。詳細につきましては金沢国際交流ラウンジまでお問い合わせください。

登録団体 「中国語教室」 何 水玉

金沢国際交流ラウンジの登録団体第1号として「中国語教室」を登録しました。私たち会員の多くは、日本語部に所属し、外国人の方々に日本語を教えています。金沢ラウンジで学ぶ中国籍の学習者も多いです。そういう学習者に中国語を通して日本語を理解させる必要性を感じました。そのためにはボランティア自身が中国語を身につけることが何より大事です。そういう目的を持って中国語を学習することにしました。週1回、木曜日の午後、今まで地域でも中国語を指導してきた経験を活かしながら学習者に中国語を学ぶ手助けをしたいと思っています。興味・関心のある方はどうぞラウンジの中国語教室にいらしてください。

料理で国際交流シリーズ6

韓国のお正月料理

2月19日、能見台地区センターで行いました。金先生と参加者27名で料理を作り、食べました。

メニューは韓国のお雑煮トック、海鮮チヂミ、ホトック（おやきのようなおやつ）トウブジョン（豆腐のピカタ）です。大根を使って作るカクテキの作り方を教わり、少したってから食べるのを楽しみに持ち帰りました。試食

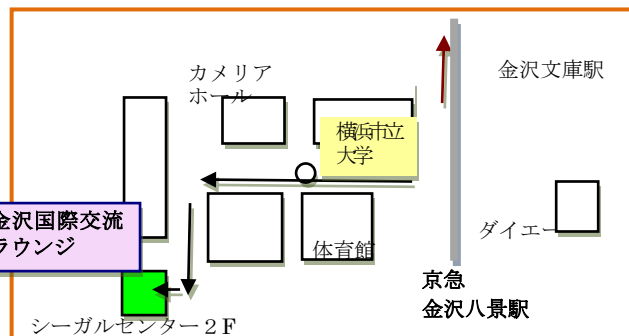
のテーブルでは韓国のお正月の話など、金先生と話が弾みました。



ラウンジ窓口のご案内

《開館時間》 日・火・木・金・土 9:00~17:00、
水 9:00~21:00 月・祭日は休館
《外国語対応》 スペイン語 火曜午後・中国語 水曜午前

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学内 シーガルセンター2階



☎ 045-786-0531 Fax 045-786-0532

外国人のためのじしんきょうしつ

2月22日（火）金沢区役所・改善改革推進委員会「外国人の視点で考えてみようプロジェクト」主催で地震訓練がありました。

場所は市立大学内で金沢ラウンジ日本語教室「火曜日」の時間に行い、逃げる訓練、煙ボックス、起震車、非常食体験などを行いました。参加者：外国人13名（アメリカ、ロシア、メキシコ、中国、タイ、バングラディッシュ、韓国、ブラジル）



《参加した外国人の声》

◇2月22日の防災訓練に参加し、初めて起震車に乗りました。震度7の揺れを体験し、とても恐ろしいと思いました。煙のトンネルの中を逃げる時は何も見えませんでした。火事が起こった時、この経験は役に立つだろうと思いました、非常食を食べ、便利なものだということがわかったので私も準備しなければならぬと感じました。

岩本 アンナ リリア（メキシコ）

◇日本に来て20年になりましたが、防災訓練に参加したのは初めてでした。実際に体験すると日ごろ感じていたことと違ってびっくりしました。非常食の準備、非常持ち出しの品物の用意などもしなければならぬことがわかりました。

非常時の対応のすばらしさを感じ感動しました。自分の国との差を感じました。出来れば、今回参加しなかった人達も1度体験してみてください。

荘 シルビア（ブラジル）



＝今後の予定＝

金沢国際交流ラウンジボランティア会
総会のお知らせ

5月16日（月） 14:00-15:30

ボランティア会 総会を開催します



22年度を振り返ってーボランティア団体の運営についてー 代表:武田 美智子

22年度は、ラウンジ開設後2度目の入札があり受託を無事に果たすことから始まりました。喜びと共に、受託後の活動と事業の目的について過去の活動を振り返り、22年度は何を重点として取り組むかについて考えました。そして、ラウンジの活動を地域社会の中でもっと浸透させていくのが必要であると思いました。地域社会の中で、活動の内容が満足され評価されるものになるためには、活動を外に向けて発信するのが先決です。その目的を果たすために、APEC会議に因んで種々のイベントに取り組みました。学校へ外国人の方々を派遣し未来を背負う子ども達に異文化を紹介し交流に協力しました。

なかでも11月6日に実施した第2回ラウンジフェスティバルは、金沢公会堂で区役所の後援を得て実施し、地域で国際交流活動をしている団体の紹介や外国人の方々の出演を通して多文化共生社会作りに務めました。参加者は約360名でしたが会場の広さを埋める多数の地域住民に参加していただく目的がやや果たせなかったという思いが残りました。ラウンジの存在を浸透させるためにはどのようにすべきだったのか改めて考えさせられました。

大きなイベントを運営するマネジメント力、実行委員の強い使命感に対しての会員の関心・意識が充分だったかなど、ボランティア団体の運営の在り方や難しさについて気づかされました。ボランティアの力を集め、その力がもっとも有効に束ねられ発揮され、大きな力になっていくためには今後如何に取り組むかが今年度の反省と課題になりました。



外国につながる子ども達の学習支援

2010年9月7日~11月12日(全8回)にわたって「外国につながる子ども達の日本語学習支援ボランティア養成講座」が開講され、講座の最終日の閉校式では、金沢区役所から日本語部員、元教員、市大生など計49名の受講生に修了証書が授与されました。2011年度は、この養成講座で学んだ知識や学校見学等の体験を活かし、実践する時となります。2月8日には、第一回「金沢区子ども達の日本語学習支援ボランティア登録者の会（仮称）」の会合が金沢国際交流ラウンジで開かれ、金沢区役所地域振興課より、「日本語学習支援教室実施計画（案）」の説明がありました。

- ①金沢国際交流ラウンジを会場とした教室
- ②地域の施設を会場とした教室(AOTS) 開催時期未定
- ③小、中学校を会場とした教室(放課後の補習授業的なものを検討中)
- ④国際教室内での担当教員の支援等

多様なニーズがあり、ボランティアの支援活動に期待が寄せられています。「今、自分になが出来るか」を各々が見つけ、将来「母国と日本とのかけはし」となる子どもたちが恵まれた環境の中で育っていける「支援力」になるべく、金沢国際交流ラウンジ、区役所、関係機関、地域等が力を合わせ、取り組んでいけたらよいと考えます。

日本語部 石丸玲子

学習支援の抱負

2010年度養成講座受講生

内田美代子

外国につながる子ども達の「日本語学習支援ボランティア養成講座」を受講した際眠っていたやる気が目を覚ました。教職現場を離れて久しいので不安ではあるが先ずはとにかく積極的に前進あるのみ!! 以前外国から来た子を受け持った時、その子は授業中にぼんやり校庭を眺めていた。学力がついていけない状態なのだ。一斉学習ではやむをえないと申し訳ない思いが残った。マンツーマンで関われば理解するだろうし、学力もつくと瞳も輝くだろうと思った。自分の経験が少しでも役立てばと思い立ったのである。こころよく我に働く仕事でありますようにと願うものである。

留学生との交流会

Meeting with international students

日本語スピーチ発表会

日本語部では、3月初旬に恒例行事として、スピーチ発表会を開催しています。最近では、日本語教室が4教室に増え、一堂に会して行うことも難しくなり、教室ごとに実施しています。①日ごろの学習の成果の発表②学習者、会員、その他、参加者全員との交流、懇親の機会とすること。を共通の目的とし、全教室、和やかな雰囲気になりました。

2011/1/26 (水) 横浜市立大学にて。 テーマ 「日本での生活を活かした将来の展望」
市大留学生10名(中国6名・オーストラリア2名・ベトナム1名・ドイツ1名)、日本人学生4名、ラウンジ会員24名、その他4名が参加し、みんなでお茶やお菓子を食べながら様々な意見交換をしました。留学生たちからは「日本と母国の架け橋になりたい」日本人からは「お互いのことがよりわかりあえるこのような機会がもっとほしい」という学生意見がありました。

留学は自分にとって大きなチャンスとなりました。将来は母国と日本の関係を深める仕事に就きたい



経済を勉強するために日本に来ました。日本はなぜ速いスピードで経済発展したのか興味があります。学んだことを母国に帰って活かしたい



いろいろな国の文化の違い、考え方の違いを知ることができました。違いがあるほど面白い。やっぱりコミュニケーションが大切ですね。



日本人は考えをはっきり言わないので人間関係に難しさを感じることもありますが、この先も日本で暮らしたい。日本は第2の母国です



日本人のノーベル賞受賞者の写真を部屋の壁に貼っています。日本人の研究に対する熱心さを見習いたい。

留学生のみなさんが慣れない日本語で堂々と自分の考えを話す姿に感動しました



野村進氏が「四季の花」「タンポポ」「おめでとう1月」の歌で会の雰囲気を和やかにしてくれました。



日本語教室で学ぶ外国人児童の一人は『将来は通訳になって母国と日本が仲良くなるようにしたい』という夢をもっています。みなさんはどうでしょうか？

中国人留学生 謝さんから
私は時々アルバイト先で日本人の同僚に中国のことを教えるのですが、みなとても興味深いようです。彼らの中国についての知識は私たちが持っている日本知識より少ないと思いました。私たちが同じ人間としてお互いの友好を深め、未来への希望を共有するためには、交流(理解)し続けることが最も大切なことではないでしょうか。店で、中には中国語講座を開こうよという人もいました。もちろんそれは冗談でしかたけどみんなやはり「人」の観点から物事を考えるので、同世代の同じ人間として私達は現在や未来に対する感受と希望を共有していきたいです。ですから最も大切なことはお互い交流(理解)しつづけることです！理解しあうことこそ、お互いの溝を埋める唯一の方法なのではないでしょうか。

火曜日(3月1日)参加者36名(発表者17名)

スピーチは、「家族の紹介」、「自国の紹介」、「ペット」、「趣味、特技」、「旅行」、「日本での体験、日本の印象」など、様々な内容が出身国9カ国の発表者から語られました。発表者達は、時にユーモアを交え、写真を見せたり、小道具を使ったりして、聞き手に話が伝わるよう、努力していました。聞き手は積極的に質問し、発表者もそれに一生懸命に答えようとしていました。一方通行でなく、コミュニケーションが成り立っていたことは、月一回、教室で行っている「しゃべろう会」の成果かと、嬉しく思いました。スピーチ発表の後、引き続き行われた「茶話会」は、初対面の人達とも歓談し、お互いを理解合えたよき交流の場となったことと思います。



学習者が「日本語でスピーチが出来たこと」に自信を持ち、次の学習への意欲へとつながることを期待してやみません。

木曜日(3月3日)参加者32名(発表者14名)

気温は低めでしたが、良く晴れた3日(ひな祭り)に行われた発表会は雛人形や桃の花が飾られ、とても華やかな教室となりました。みんな元気良くスピーチを行いました。内容は、ペットのことや帰国も含めた旅行のこと、日本語の勉強のこと、初めて体験した稲妻のこと、趣味のマラソンや現在の自分自身のことなど、多岐にわたりました。1人のスピーチが終わる度に、質問が飛び交い愛犬たちの写真も回覧され、あっという間に時間が過ぎていきました。続いて、11時半過ぎからは、ジュースとお菓子の茶話会になりました。発表を終え、ほっとした学習者と担当ボランティアの、和気藹々とした打ち上げのような雰囲気でした。また、学習者同士で、メールアドレスを交換したりと、楽しいパーティは少し時間オーバーして12時過ぎに終了しました。皆さまのご協力に感謝致します。



土曜日(3月5日)参加者24名(発表者11名)

学習者のみなさん、御苦労さまでした。そして有難う。ラウンジに来たばかりの方々の自己紹介から、難しいテーマに頑張って取り組んだ方々、そして聞いている人々を和ませてくれた2人の小学生のスピーチ。学習者のだれもが自分が思っていたり、考えていることをしっかり伝えられて、本当に素晴らしかったと思います。一人ずつが素敵なボランティアの先生たちと出会い、今まで勉強してきた良かったですね。これからの励みになることでしょう。区役所の市川さんの言葉「驚きました。このラウンジで勉強することで一人ひとりだんだん日本語がわかるようになっていくのがよくわかりました。」と述べて下さいました。終了後のランチパーティでは、手作りのおいしいお料理を食べながら、大いに盛り上がり、あちこちで交流の輪が広がりました。期待通りの楽しいスピーチ発表会になりました。素敵な飾り付けで会場を華やかにして下さった火曜の方々に感謝！



日曜日(3月6日)参加者33名(発表者13名)

昨年度より発表者数は少なかったが、内容の濃いスピーチでした。発表者8名が昨年度も発表しており、継続的に日本語を勉強してくれていることの現れであると思われました。お国の紹介ではタイのプミポン国王が国内をあまねく巡幸して、国民のために必要な施策をどんどん実行していった話やミャンマーでは83%がイスラム教徒であること、韓国では小学校1年生から塾通いしてがんばっている話など参加者の興味を引く内容でした。比較文化論では、とくに食文化とマナー(公德心)についての発表に対し質問や意見が飛び交い大いに盛り上がりました。日本人が几帳面であり、公衆道徳が徹底しているとの発表にはちょっと面映い思いもしましたが、それならもっと胸を張ってがんばらなくては、とも思いました。小学生からは子どもたちの目から見た日本と出身国との違いを実に上手な日本語で話してもらいました。和気あいあいとした雰囲気が盛り上がる中、茶話会ではあちこちで談笑の輪がひろがり、結局予定時間を20分もオーバーして楽しかった発表会がお開きとなりました。

